

主要行等の平成 22 年 3 月期決算の概要

1. 損益の状況

- 実質業務純益は、資金利益及び役務取引等利益の伸び悩みにより、ほぼ前期並み。
- 当期純利益は、株式等の減損処理や不良債権処理の減少などにより、前期に比べ 2.8 兆円増加。

(単位：億円)

	20 年 3 月期	21 年 3 月期	22 年 3 月期	前期比
業務粗利益	66,900	61,426	62,998	1,572
資金利益	40,931	42,252	43,407	1,155
役務取引等利益	14,459	12,156	11,817	▲339
債券等関係損益	1,088	1,179	1,842	663
うち、債券等償却(▲)	▲1,597	▲2,173	▲424	1,749
経費(▲)	▲34,126	▲34,830	▲33,701	1,129
実質業務純益	32,774	26,596	29,297	2,701
不良債権処理(▲)	▲4,110	▲19,114	▲9,655	9,459
株式等関係損益	▲413	▲15,613	622	16,235
うち、株式等償却(▲)	▲5,186	▲15,146	▲1,659	13,488
当期純利益	14,527	▲16,069	11,594	27,663

(参考)

	20 年 3 月期	21 年 3 月期	22 年 3 月期
貸出金(末残)	248.2 兆円	260.8 兆円	244.1 兆円

(注) 貸出金は銀行勘定計

2. 不良債権の状況

- 不良債権額は前期に比べ増加、不良債権比率も上昇。

	20 年 3 月期	21 年 3 月期	22 年 3 月期
不良債権額	3.9 兆円	4.8 兆円	5.0 兆円
不良債権比率	1.38%	1.66%	1.86%

3. 自己資本比率の状況

- 自己資本比率は前期に比べ上昇。

	20 年 3 月期	21 年 3 月期	22 年 3 月期
自己資本比率	12.30%	12.42%	15.82%

(注1) 記載金額は、単位未満を四捨五入して表示。

(注2) 一部の銀行において再生専門子会社及び株式保有専門子会社の計数を含む。